

# しょうとくたいしほうさんえ 聖徳太子奉讃会

しょうとくたいし せいれき ねん ねん だい だい ようめいてんのう ちちおや あなほべのほしひとおうじょ ははおや せいれき ねん う たいし  
聖徳太子（西暦574年～622年）は、第31代 用明天皇が父親、穴穂部間人皇女を母親として西暦574年に生まれました。太子の

ははおや おうじょ うまや まえ さんけ たいし うまやど な つた おぼ だい  
母親である皇女が、馬屋の前で産気づいたため、太子は「うまやど（厩戸）」と名づけられたと伝えられています。叔母である第33

だい すいこてんのう そくい さい こうたいし せつしょう げんざい そうりだいじん やくしよく けんんにん たち みみ  
代 推古天皇が即位すると 20歳で皇太子となり、摂政（現在でいう総理大臣のような役職）も兼任しました。わたし達が耳にす

る「聖徳太子」という呼び名は、後の人がうやまいの気持ちをあらわして名づけられたものであり、太子の正式な名前は「厩戸豊

とみのみ こ にほん ぶつきょう ひろ こうせき わこく きょうしゅ にほん しゃか い み  
聡耳皇子」といいます。また、日本に仏教を広めたという功績から「和国の教主（[日本のお釈迦さま]という意味）」とたたえ

られました。

にほん ぶつきょう つた やく ねんまえ どうじ ひとびと ほとけ がいこく ねが ごと  
日本に仏教が伝わったのは約1500年前で、当時の人々は、仏のことを「外国からやってきた願い事をかなえてくれる神さま」

「外国からきた仏は強力な力を持っているので、大切にしないと呪われる」など、仏教に対して間違った理解をしていまし

た。しょうとくたいし ぶつきょう ただ りかい あらそ ひとびと やす こころ ほとけ おし ひろ  
聖徳太子は仏教を正しく理解し、争いばかりしていた人々が安らかな心になるように、仏の教えを広めようとしま

した。しょうとくたいし ぶつきょう おし じゅうしちじょうけんぽう にほん すば  
聖徳太子が仏教の教えをもとに作成した『十七条憲法』は、お互いに認め合い、争いをやめれば、日本は素晴らし

い国になると願いつくられた17個の条文（目標）のことです。

じょうもん だいじゅうじょう とく ゆうめい ぶんしょう じゅうじょう われ かなら ひじり あら か かなら おろか あら とも こ ほんぶ  
その条文の第十条は特に有名な文章で、「十条 我れ必ずしも聖に非ず、彼れ必ずしも愚に非ず、共に是れ凡夫の

み。（自分がいつも正しいわけではないし、相手がいつも愚かで間違っているわけではない。お互いに

まちが へいぼん よわ にんげん  
間違ふことのある平凡で弱い人間にすぎない。）」となります。

ひと かんが じぶん しゅちょう なか  
人にはそれぞれに考えがあって、自分のことばかり主張しすぎると、仲たがいでしてしまいます。

ケンカをしてしまうと、お互いに自分の考えが正しく、相手が間違っていると思ひこんでしまいます。

にほん ぶつきょう つた どうしよ ぶつきょう う さんせいはい ほんたいはい せんそう  
日本に仏教が伝わった当初は、仏教を受け入れるかどうかで賛成派と反対派で戦争をすることさえ

ありました。「自分と違う考えの人は許さない」という考えを持つと争いしか生まれません。だから

こそ太子は、『十七条憲法』を作り、人の意見や考えが自分とは違う時でも、怒らないようにし

なさいと教えてくれているのです。人にはみんな心があって、それぞれ考えていることがあり、誰が

ただ まちが き  
正しいとか間違っているとか決めつけることはできないのです。

しょうとくたいしほうさんえ げんたい ひとびと せんけい たいし とお い ひと おも かんしゃ  
「聖徳太子奉讃会」は、現代においても人々から尊敬されている太子のことをしのぶ（遠くに行った人を思い、感謝すること）

ぎょうじ うえ しょうとくたいし えぞう かか ぜひ よみ て あ  
行事です。ステージの上には聖徳太子の絵像が掲げられているので、是非、そのお姿を良く見て、手を合わせましょう。

ことし しょうとくたいしほうさんえ がつ にち きん  
今年の聖徳太子奉讃会は4月14日（金）におこなわれます。



左：殖粟皇子（[えぐりのみこ] 太子の弟）  
中央：聖徳太子  
右：山背大兄皇子（[やましろのおおえのおうじ] 太子の息子）